

働く障害者インタビュー

VMネットでは、毎回働く障害者の方のインタビューを掲載していく予定です。
今回は、在宅で働いている

林 映二さん（バーチャルメディア工房ぎふ）
（29歳 脳性小児麻痺）

をご紹介します。

Q いつからお仕事を始められましたか？

22歳から。もう7年目。

Q どんなお仕事をされていますか？

主にホームページ作成、パソコン講習の講師など。

Q 仕事はお忙しいですか？

仕事によります。仕事が重なると、毎日1日中、作業することもありました。

Q お仕事の面白みはどんなところですか？

1つのことを一貫して担当できるところかな。例えば、ホームページ作成では、企画、デザイン、制作まで自分で担当させてもらえる。デザイン面が苦手分野で「やっぱり向いてないなあ」なんて、考えてしまうことが多々ありますけど…。

Q 今課題に感じていることは何ですか？

企業で働いたことがないのでノウハウや経験がない。書籍などでいくら、技術的なことは学べても、そういうものは得られない。自己流でやっているので、常に「これでいいのか」という疑念を持ってしまう。もっと経験を積み、技術を磨き、よりいい仕事をしていきたい。

Q 在宅就業するにあたって、大切だと感じることは何ですか？

納期を守る。体調管理などは基本的なことはもちろん、客観的に自分の仕事を評価する目を持つこと

だと思います。在宅就業は基本的に1人で1つのことを完結するので、他の人がどのようにやっているのか、最新の技術、技法など、いろいろな情報が入りにくい。他人と比較してどうこういうのではなく、情報入手する場が極端に少ない。そういう情報があれば、自分の仕事の改善すべき点が見えてくる。どんなにいい仕事をしていても必ず次への課題があると思うので、そういう課題を自分で見つけ出すことだと思います。モチベーションも自然にあがるしね。

Q 「仕事をしていて良かった」と感じる時はどんなときですか？

人との出会いかな。今の飲み仲間みんな仕事のつながり(笑)。僕はこの7年間で仕事を通じ、いろいろな自分の可能性が見えてきて、自動車免許や一人暮らしをすることができました。これは仕事をしていたのももちろん大きいですが、いろいろな出会いの中でいろいろな支援や、叱咤激励をいただきながらのもので。

Q 今後の目標を聞かせてください。

3つあります。

1つ目は、もっと経験を積み、技術を磨き、よりいい仕事をしていくこと

2つ目は、今まで多くの人に助けられ、ここまでやってきました。いずれ(10年後？、20年後？)は、今度は自分が反対の立場になれるようにしていきたいと思います。そのためには、もっと成長が必要ですけど…。

3つ目は、彼女を作ること(笑)。これが最大級の課題かも。とにかくがんばります。

このインタビューをお願いした後、林さんは Man to Man G Animo.com株式会社(大垣市)で働くことが決まりました。工房で得た知識や技能を活かして頑張ってもらいたいと思います。